

## ＜背景・目的＞

「沈黙の臓器」といわれ、自覚症状がないまま病気が進行する肝疾患は、放置すると肝硬変や肝がんを発症するリスクが高く、がんの死亡原因の３位である肝がんでは、毎年全国で３万５千人が死亡している。

また、国内で３００万人がＢ型及びＣ型肝炎ウイルスに感染していると言われており、国はだれもが１度は受検するよう進めているが、日本の約半数の人がまだ検診を受けておらず、感染を知らずに治療を受けていない人が全国に５３万人いるとのデータもある。

一方、Ｃ型肝炎は薬で治る時代となり、医療費助成の対象も拡大していることから、地域において、検査から適切な治療へとつながる体制整備が重要となる。

市町村や医療機関の専門職等が、肝炎の予防や早期発見、また最新の治療等についての正しい知識を学ぶことで、患者や家族に対する相談にも対応でき、未受検者を受検から適切な治療へつなぐことができる人材「奈良県肝炎医療コーディネーター」を養成するための研修会を実施する。

## ＜プログラム＞

① 奈良県の肝炎の現状と肝炎医療コーディネーターの役割 （奈良県保健予防課）

② 先進事例

—ＡＬＬ佐賀で取り組む肝疾患対策—

佐賀県健康増進課 統括肝炎コーディネーター 泉 夏美

③ 奈良県における肝炎対策 （奈良県保健予防課）

④ ウイルス肝炎の現状と最新治療情報

奈良県立医科大学内科学第三講座 助教 竹田 幸祐

⑤ 肝硬変と肝臓について

奈良県立医科大学内科学第三講座 助教 高谷 広章

⑥ 外来、入院で看護師が行う肝疾患患者に対するケア

奈良県立医科大学附属病院 病棟看護師 北村 亜樹

⑦ 閉会の挨拶

奈良県立医科大学内科学第三講座 教授

肝疾患相談センター センター長 吉治 仁志

## ＜実施主体＞

奈良県医療政策部保健予防課

奈良県健康福祉部健康づくり推進課

奈良県肝疾患相談センター（奈良県立医科大学内科学第三講座）